

2025 年 9 月 14 日 聖霊降臨節第 15 主日礼拝次第

敬老感謝・主日礼拝

前 奏 (黙 想)

招きの言葉 列王記上3章 11～12 節(旧約 532 ㊟)

讃 美 歌 321(しずかな喜び)

主の祈り <C>(讃美歌93-5)

詩 編 交 読 詩104編 24～35 節(交読詩編 118 ㊟)

聖 書 コリントの信徒への手紙一15章 35～52 節(新約 321 ㊟)

祈 禱

讃 美 歌 452(神は私を救い出された)

説 教 「朽ちるものでも」 田中雅弘牧師

讃 美 歌 464(ほめたたえよう)

信 仰 告 白 使徒信条(讃美歌93-4)

献 金

讃 美 歌 88(こころに愛を)

派 遣 祝 福

後 奏 (黙 想)

報 告

※讃美歌は原則として全節を歌います。

主の祈り C(讃美歌21 93-5-C)

司式者) 天の父

一 同) わたしたちの父よ、
み名があがめられますように。
あなたの国が来ますように。
みこころが天と同じく地でも行われますように。
きょうのパンを きょうお与えください。
わたしたちの負い目をおゆるしください。
わたしたちも負い目をゆるし合います。
わたしたちを誘惑におちいらせず、
かえって悪からお救いください。
国も力も栄えも、限りなくあなたのものです。アーメン

聖 書 コリントの信徒への手紙一15章 35～52 節

復活の体

35 しかし、死者はどんなふうに復活するのか、どんな体で来るのか、と聞く者がいるかもしれません。 36 愚かな人だ。あなたが蒔くものは、死ななければ命を得ないではありませんか。 37 あなたが蒔くものは、後でできる体ではなく、麦であれ他の穀物であれ、ただの種粒です。 38 神は、御心のままに、それに体を与え、一つ一つの種にそれぞれ体をお与えになります。 39 どの肉も同じ肉だというわけではなく、人間の肉、獣の肉、鳥の肉、魚の肉と、それぞれ違います。 40 また、天上の体と地上の体があります。しかし、天上の体の輝きと地上の体の輝きとは異なっています。 41 太陽の輝き、月の輝き、星の輝きがあって、それぞれ違いますし、星と星との間の輝きにも違いがあります。 42 死者の復活もこれと同じです。蒔かれるときは朽ちるものでも、朽ちないものに復活し、 43 蒔かれるときは卑しいものでも、輝かしいものに復活し、蒔かれるときには弱いものでも、力強いものに復活するのです。 44 つまり、自然の命の体が蒔かれて、霊の体が復活するのです。自然の命の体があるのですから、霊の体もあるわけです。 45 「最初の人アダムは命のある生き物となった」と書いてありますが、最後のアダムは命を与える霊となったのです。 46 最初に霊の体があったのではありません。自然の命の体があり、次いで霊の体があるのです。 47 最初の人土ででき、地に属する者であり、第二の人は天に属する者です。 48 土からできた者たちはすべて、土からできたその人に等しく、天に属する者たちはすべて、天に属するその人に等しいのです。 49 わたしたちは、土からできたその人の似姿となっているように、天に属するその人の似姿にもなるのです。 50 兄弟たち、わたしはこう言いたいのです。肉と血は神の国を受け継ぐことはできず、朽ちるものが朽ちないものを受け継ぐことはできません。 51 わたしはあなたがたに神秘を告げます。わたしたちは皆、眠りにつくわけではありません。わたしたちは皆、今とは異なる状態に変えられます。 52 最後のラッパが鳴るとともに、たちまち、一瞬のうちにです。ラッパが鳴ると、死者は復活して朽ちない者とされ、わたしたちは変えられます。

讃美歌321番

- 1 しずかな喜び、声あわせ歌おう。
みなでたたえよう、こころをあわせて。
主イエスは死に勝ち、永遠の救い
われらに与えた。
- 2 死をうち滅ぼし、主は勝利された。
力といのちの 主はまことの神。
み国へみちびく 確かな約束
われらに与えた。
- 3 ことばとわざとで 栄光をあらわせ
主はその恵みで 死よりときはなち
天のみ国へと われらをみちびく。
喜びたたえよう。

讃美歌452番

- 1 神は私を救い出された。
信じるこの身に 恐れなどない。
尽きることのない いのちの水を
価なく誰にも 与えられる。
- 2 神のみわざを 世界にしめし、
とうとい主の名を 語り伝えよ。
高らかに歌え、聖なる神は
われらのただなかに いてくださる。

讃美歌 464番

- 1 ほめたたえよう。主のみめぐみ。
今日まで旅路を 主は守られた。
(くりかえし)
世界の民よ、たたえうたおう、
「あがないの主に み栄えあれ」と。
- 2 ほめたたえよう。主の名によって
うけるものすべて 良いものとなる。
- 3 ほめたたえよう。主の御名こそ
死のせまる時も 慰めとなる。

讃美歌88番

心に愛を 豊かにみだし
日ごとのわざに つかわしたまえ